



9
30 1 2 3 4 5 6 7 8 9
40 1 2 3 4 5 6 7 8 9
50 1 2 3 4 5 6 7 8 9

廣益俗說辨卷三目錄

神祇

一 濱田大明神 ヨウセイノミコト 楊夷妃 ヨウイヒ を廢て唐朝と乱ヨシナリ — 疎説 ハラハラ 蓬

葉乃說 ハラハラ

二 燕野神天竺チヂム から飛來猿カクレザル 附説

補 渡唐ハタヂ 乃天神鬼說

三 愛宕神ハ日羅ヒラ を祀ヒツク つて本地ハ勝軍ヒタチ 地荒ヒラフ 也シテ 云說

訂補

四 金峯山キンポウサン 乃神ハ金剛翁王キンゴウオウ 也シテ 或ハ安閑帝カンカン 大靈翁祀

あと云說

五 富士淺フシ 同シモ 神ハ赫夜姬カツヤヒメ と祀ヒツク ふと云說 附 富士山孝靈帝

乃門守にて現るを既說

訂補

六栗嶋大明神ハ女體アヌをあがよ婦人有病をちり経すと云

説

訂補

新蠟通明神乃從

アリトホレテ

新笠嶋道祖神藤不實方林跳毅ナコロと實方雀サメとから說

訂補

七大隅西八幡主タマツ天竺陳大王乃源と云說

新松浦大明神と甚尔慶經ヒルヨウジと祀スルと云ゆくハ松浦佐

用娘メイコと於アリと云說

中補

八巖佐竹生孫江蘇比神ハ每树矢ミサキと云說 内三神と夜狐

王う女と云說

訂補

補速吸日女神乃從

ヤクスアヒメノヒメ

圓補

九大黒夷子比像ビラフ乃從

コクエシヒス

圓補

廣益俗說辨卷三

井澤長秀 輯錄

神祇

一 熟田之明神楊貴妃ヨウキとからえて唐廟トモアラハシマと礼トモエタシて御上院ミヤヒヤ附トトロ蓬

菜乃院

佐佐云唐乃玄宗皇帝タカラタチノタツコウカイ曰クモリ不張ハヂナシうウせん少シヤウも少シヤウつあタクるよ
熟田トトロの作トコト楊貴妃ヨウキとされく玄宗タツコウと蕩トコト一世イセイ
札タタキ一日ヒルとヒルの乃オノ孫コトコトをやヤセセかカひのねノネと後タヒ楊貴妃ヨウキが
寧タモリゆて教タマシされタマシて玄宗タツコウかカおオみミよヨめメどド方カタをヲばバつ
うウて貴妃ヨウキの靈リョウ紙シがガれレきキふフよ蓬ボウ葉エにニすスぬヌとトて
名メイ不ハ熟田トトロ而トトともトモは不ハ蓬ボウ葉エ傳トトロと玄宗タツコウと貴妃ヨウキ

祠と申社乃うしろふと側の玄宗代塔波女と云。

今按又よは後其事と承すり浦神名帳頭註云斂田
社者日本武尊留其形影天村雲劍爲御神體尾
張國風土記云斂田社者昔日日本武尊巡歷東國
還時娶尾張連等遠祖宮酢媛命宿於其家夜頭
向廁从隨身劍掛於桑木遺之入殿乃驚往取之
劍有光如神不把得之即謂宮酢姫曰此劍神氣
宜奉齋之爲吾形影因以立社斂田御爲名也

やうとくひも貴妃と申り又方士の間に來事と云
史実源氏物語より見てど唐詩解長恨歌辞よ彼方

士の貴妃小蓬萊すくやくを楊貴妃馬嵬邊にて殺され
之化花劍等民間よ散在せまか死をもくめとゆきて帝
を乃そもまかん他乃術ちに乃ども死をうへて後
の傳も傳もろにあきつてよすよそれもみ半乃志をうへ
蓬萊が死んで曰か大事と一曰か龍右來毛毛小
糸日下毛る其嬢倭娘乃所衣伏脱一婦女内から
小松て川上鳥拂衣拂一其衣浴伊織圓無襪也
れを絶命一馬嵬の死をうと高僧と一とれて玄宗
うそ曰か死をうと蓬莱と称する不多一或曰慙林僧傳

之或曰富士松葉六所富士山也或曰藝田曉風集屢華堂記或曰加賀白山日
或曰扶津佐吉大森松也或曰伊豫三名據樟記院む一蓬萊方
記院吳庭或曰安藝敷原佐多盛裏記或曰立丹後國丹後地と行
みを或曰列子載五山一曰岱嶽二曰貞嶠三曰方壺四曰瀛
州五曰蓬萊其山高下周旋三萬里其頂平處九千里山
之中間相去七万里と云列仙全傳云有巨鱗之鼈負
蓬萊之山而於舞戲滄海之中也又吳寧野子小窓別記
云三壺海中三山也一曰方壺即方丈也一曰蓬壺即
蓬萊也一曰瀛壺即瀛洲也其形如壺上廣中狹下方
皆如工制幾也見へまく内かかわるて紀不存記

わらど此假訂補

二 然神祚天竺より堯來て終不絶

俗說云天竺摩伽陀國又名財王一義とぞなりと云其妃
名襄歎ナミタニノ名は女懷姫クニコロと云と他有妃これと稱アミ
善財王が苗守スミヤシと云が官人ウジと云ふ者法女伏山中小
教キテじも死後かゝれて死男スミヤシと云ふもの小よ夜見キニ
上人との考究アラカルトひよと云ふのちとくまで後年若初

王よりうけりと御名財玉ひ四と具一器行武車か家
て日本小太刀と大劍とす。また勝境と見えよ豊
前國泰山と大和國よどが山にて八角丸水瓶石とすり又
八尺乃筆と化して犯別處をせに至りてゆく事有
無事と名村若村の皇子ひ不よせどすりて神と祝と
車えハ在見上人新矣ハ若初生小皇子西みとみ裏處
此言法女たちとお絵紙然并三社く号とよぶ又一院み
ハ奉徐福一作秀蓬萊よゆき草紙とよじとては不よ
フモ死一ありと然外特現とすれどとくよ

今據あはれ後君琳乍り代奉云伊弉冊る火神

軒歎實多生とと紀物とて神近去也亦よ紀物無事
有る村よ葬ふ去俗は神魂を牛糞あよハ花乃と祀
とを以て牛糞又鼓吹幡旗と用ひ祭事て祭事と
カノ是かえから山家神天皇六十五年に建立一號
補長寛勘文云紀伊國牟婁郡熊野早玉神社伊弉
諾尊子熊野坐神社再紀川志云牟婁郡熊野本
主を那智山乃西小七里ぐりむけり●上四宮左事解
事甲珠丹○西御前二社右伊弉諾尊伊弉諾子伊弉
一棟ゆて別殿方々○證誠殿因常立焉。酒換○若宮延
太珠丹●中四官禪師宮泥土造る○兒宮太元年造る○聖文西是年
神根高珠丹

○子守文 伊弉諾子
伊弉姫子 下四支一萬御前文 獨處十万
御前子 正哉吾孫子

補
渡唐乃天紳此說

俗說云曰かの僧入唐して徑山より後どうとんわきを定めた
神わくとくの内かの菅原丞相とをめりて受取まつて
此後既久くえ本うそにすとくとて若承
モ観乃ち發記ありスルトキ
今樓あよがれ僧常にて神と信作とあがよ奉ひた
多喜の不、寔ナリ。ノ因乃ちうに山觀わくとくと
虚ナリ。トシテよ薩天、陽難詩妙選、薦焉よ天滿文と題
モ無常說法現神道。千里飛梅一夜松。萬事夢
醒雲吐月。觀音寺裡一聲鐘。どやう在來うち天神
乃靈德異域ゆき傳也。ふては松林歎と好乗者に効

おもいで渡唐乃 強強仇敵とくを失うべ
三愛宿祚ハ日羅^{アヌコ}と紀モ平地ハ勝軍比^{ナシ}と云
佐鏡云モ愛宿於現ハ秋乃日羅ク靈也て平地ハ勝軍比^{ナシ}
ナツコは秋モ其家子孫多數とけ後繆傳ひそく平邦よりよきも
岩山灵感
其事と記

今按予よ非すらと愛宕社ハ仁井華もると少皇產靈
令とすらてすが神社うちめ山城國愛宕社より是よ
愛宕社と是もと後よ同名葛耶社よりうりと
けみよ延喜本よりハ丹波國トヨアレハシチウ
齋而於乃多在神社と云々そぞ芳木ト室乾云天根翁第七の陰神
者也ホノムスモ

靈旗垂幕下行まば非少威防き且唐安威懸くハ朝輶突
奇小やれて退去よきてねと 補 弦社根元記云西より八咫
乃嶺カラ因作岩戸と出とをきよ先代ナリ勿御一社八
咫乃後よわざれうち名づきてやなの事ひとつ後也此
人やごどれ少と又一よひ敵覆一よひを三
人やごどれ少と又一よひ空襲して云
丙十四廿四日辰立位上焉萬護神授位四位下ノとあう又月
羅ハ犯後因芦小弘比領主巧梨斯モう子わす宣化天
皇乃御宇小百陳よ往てそすすり沙ぬ天皇の朝も元
御朝一而原乃德尔之あよ教う芦小義曰既往尾張
芦小よ葬ふと曰本紀小豆之字 本傳。傳名の如。愛宕

乃神と半のつゝことうてか一ちよの碑集よ文武
帝の門下に天狗天皇は日良唐の名前我初の左衛
坊行を山よ生祝とおとわゑ、我らちくらむとあん又
志川兵士務軍北義とり半と佛經よかじとおひが天
萬年守に慶後とツメ修祓別式を尚の國ナム族嘗
此二字と附會とつゝ 此段補

四今峯山神ハ金別義とひ義ハ安國帝ハ靈廟内
ありと云也

俗後云大和國金峯山神と金別義と云薩ホサツとひ義
安國天皇乃靈とナムと云

今按かよ今峯山外神とが夷名祭ヨシニキノミコトと云
和尔雅レガ小金峯山神社少彦名命と記とす金村の歎
よ神代より古來多の事カタハタクシテ山川と云ふ
やとわきへゆ矣名と云既信と云にあれどもよ近事式
乍く今峯神社とびりみそ神名とれせどくは凡
佛經よ戒スル今剣義と云薩ホサツと云ふや我初のま
ア來子れと云わとも義極テラ六帖チヤウと云れ紙出シテ添勒
美薩ホサツ化身と記スル半
み高士流る神ハ赫承娘ホウセイノミコトと云虎附ヒョウヅク高士山孝靈帝ホウリイ
御宇ミタマに現スル也

信義云孝靈帝即位八年より近に湖ありわき後河より富士山あらずと仰て後河四より老翁老婆あり翁を宿す宿す
嬢ハ狗と飼わむと化竹の夜ちる間より一女伏得坐りと代
かからまゆく事みて極の光りかづかずがよ孫和姫と名
ほく一派より行かれ森竹林にて産め卵とてきわら豆羽庵で宮教兵
御名帝桓侯帝坂上田村丸と號傳とてかきと故鄉で
妃とせんせんに娘に娘ふともく秋ハ天女をうぐくおにそ
アミベウシヒとて高士の巖窟より帝はと張敷坐みて
てそそ絶をえひ巖窟よりうかく紀限出むらひていそく
換りそくハ天子は窮すよどぬつと後とてやまと小塞に入

て見そどわくふ玉冠乃と號つまゝくをあよ石城極く陰と
ところ紙高士派前大権現と号と翁と號と號と高士の御
四祚と號と又一派より緋夜姫天よりかう云と化不死乃義法
帝よりすとをあよ帝 わふ事もなみどすようふわづとめと
死ゆくとくをほゆくせんとて富士よりそぞれとそくと
て度也一久ハ其縁今少へれまやくつ又一派より緋夜姫
ハ歎明帝の妃みて聖德をみれ組母をとくとく

林羅山義云孝靈帝即位八年より近に湖ありわき後河
源河固より富士山乃見と是日本紀より載ざる不ゆて教
言道良勸言道年より富士山記ゆき又元始より後河と
民信れ不殊

乃發信と序よ是と西峯松下氏云善葉集に山達赤
人富士山越をじ教かく天地めりむれとぞよ新達
ちもと神がひて。ちくちゆき。新達スルカ
ちる狼と。天代尔ぬつとさきなもバ。わろ日の。がげとかく
ろもてか月の。もうりを日々と。白雪も。いゆも。うら。
新達スル雲れいと。時くとも。あはぬうあらがつづ。ひ
は紀ゆし。富士代根ハ。ばく。然と。く富士代根代
よりわが奉ねだ。孫よ近に圓尻山东西まで
まち中少大を張瀧よほとを海れヒト。ハカハシく
アヌカハ現や。一秋お比をて大潮と生レミタ

富士と。色あれ車乃んや。の余機かよ。緋和服
竹物絶ゆ。あきれ遠と。えけう者行向よ。女子と
毛を免得て。緋和服と名づくと。起一ぬも。どもの
帝と。彼と。車伏せ。ど娘。昇天。車ハ。わも。と。の
寢小人。神と。たるモ。一。足跡を。傷。と。脚。空穗行。久ハ
仰り物語られ。橋。と。足跡を。傷。と。脚。空穗行。久ハ
小行多義と。手と。載。ぬ。も。と。別。人。坐。緋和服
父事ハ。承。又。寄。服。と。以。統。經。め。き。く。及。と。又。祖。武。帝。く
や。かめ。う。経。と。追。て。う。の。小。宿。中。小。入。が。小。本。基。と。非。か。り
類聚。圓。延。暦。二。十。五。年。二。月。辛。巳。崩。於。山。城。因。葛。

野郡宇多野為山陵地捨林抄云極武帝陵在休鬼
山少子所多岐主門多有之也。又富士陵向
神木花開耶娘小至伊勢濱宮神と同游也。山旁
神加云富士神本花開耶娘者大山祇食之女而瓊之
并尊之妃也。花開耶娘一名八鹿芦津姬と以大山祇
乃二女たり舊事紀曰本紀より後記也。傳紀鎮座
傳紀鎮座本緣云伊勢朝熊一作神社云
座其中櫻大刀神雙坐大刀神靈花木座大八湖
櫻樹始從天上降居因以爲花開耶姫命小朝熊神
云櫻大刀自於石壁。伊勢地志云度會於櫻宮小朝熊座內花開耶娘傍櫻樹呼殺
曰櫻宮日下櫻之始也。坂古佛伊勢奉詔記云探名ト十八大丈九尺うちさき不詳

中ニ一木代櫻と并御と云。度會延佳狹也。有畫云櫻官朝熊五柱神拜也。甚
善云朝熊乃神社御櫻八日御氣初の御からと云。御記より。多承也。伊佐
波登羨神考證云。朝熊者芦津姫之通音也。葦與
朝通津姫與熊通大山祇女鹿葦津姫亦名木花
開耶姫櫻大刀自爲花開耶姫今俗朝熊稱濱間
帳驥河國富士於濱間神社稱木花開耶姫神古
號也。寫古承稱也。多承死代也。八年。左後内之。如
爲花開耶金也。富士古歌詠櫻者有之。豈惟比雲
而已哉。良有以矣。是等然り門て子よ。開耶娘孫耶娘相

廣雅

卷之三

小山の山の上に建つて、其の傍には、漢代の劉子良が作成した「劉子良集」がある。この書籍は、漢代の思想家である劉子良の著述を収めたもので、その中には、「漢書」、「後漢書」、「晉書」、「宋書」、「南史」、「北史」、「梁書」、「陳書」、「隋書」、「唐書」、「五代史」、「宋史」、「元史」、「明史」、「清史」等の歴史書籍が収められている。また、この書籍には、「漢書」、「後漢書」、「晉書」、「宋書」、「南史」、「北史」、「梁書」、「陳書」、「隋書」、「唐書」、「五代史」、「宋史」、「元史」、「明史」、「清史」等の歴史書籍が収められている。

聖湯姫ハ猶内帝之妃也。蘿衣内宮^ノが女力^{アメニ}と用ひ帝乃
后御人^{ミツヒト}母小姉^{ヨシキ}ハ故内帝^{ヨシキ}之女也。蘿衣猶
同^ク女^{アメニ}ナリ是^{アメニ}考^ラヘテ佐野内御医^{アメニ}此段訂補
六^{シズ} 素行大病^{アメニ}非ハ女^{アメニ}神^{アメニ}大病^{アメニ}と守^{アメニ}此段
佐野^{アメニ}素行大病^{アメニ}非ハ後^{アメニ}大神^{アメニ}妃^{アメニ}也。第^{アメニ}下大病^{アメニ}よ
以^{アメニ}陽作^{アメニ}うとみ^{アメニ}素行^{アメニ}よ^{アメニ}。後^{アメニ}止^{アメニ}は女^{アメニ}病
といひふよかゆ^{アメニ}と歎^{アメニ}通^{アメニ}りと云ふ

向井家因云粟作の神八女神より御子と云ふ事也粟作ノ元
子少矣名命少くも神代卷より已貴命より少夷翁命公
安丸也天下ノ武經堂タケニ
多キアリト并タコニケモ

廣益錄

小其病と療ヨリ方找定めを興比出比災異と
えんせんより移麻ヨリシマレ法と定め多城と曰て而始今小
口傳までとくを恩物とがく有足後ヨリタラ大已貴留少
參名會ヨリタラシヨウ曰吾等不遠ヨリタラシヨリヤシナヒト内宣謂名成之年少矣名會と
生えてわああハ脚ヨロツかむきわうヨル威ハ成ヨリタラシかむきわうヨル
津原ヨリタラシより後ヨリタラシて祀ヨリタラシ栗代神社ハ紀伊國ヨリタラシアリ
猶御ヨリタラシ志云粟代神社ハ海祇那加志那加村の西南をより
皆古文書等有小傳中と云ふよ移居ヨリタラシ中には不よりど
名余久已貴ヨリタラシよと毛ヨリタラシひ孫因城ヨリタラシからかひあよ陰神と
まちえ病と療ヨリ方とそと先ヨリタラシと云候人代病
あらはりや一終すヨリタラシ久已貴ヨリタラシよとももあて津原ヨリタラシ

新編通則彌力統

佐保云づもれ代かう帝モト
用て老うる者をとてまぬモト
幸にわすらモト父母モト
ひうちモトあめはうりモトふかくモト
ゆきモトみよと秋モトめり帝モト
用モトてとくにあづもれモトあづモト
まぐともわだモトくへモト帝モト

乞翁人乎一中ね翁よゆつて父よ向と父言て其本代
をされりやきにけり故てぐよけよ向ひをあひて是未だ家
ありまく行後中ね翁因てかくと奉りふるるみと
か事ナシは居たまき一浅はまく少しあふアドミラウ
蛇のれがくさりあはせ二つ雌雄をあひひきそと今そ
れくあよ翁人あらきれハ中ね翁よゆう父よ向と蛇
二つ伏あくび尾めくよ細きどくえびすとせよ尾りと
瘦くん体岐とキモと云あとハ筋びとせもくらすと
がくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
セコドクムサクアホホカホヨロカホトタクス通じて

之とよよ又翁人りたか中ね翁ふ向よ父答てそれハ入る
お鐵と二つを腰よ細きあはせけひをこねるよ審候
ぬつて見よせりとされハウジもくもひて蟻をつまむるけり
小審のあとがきてうかごう寧よ出されハミ多よぬとあ
系代はき通してつづくをかよもどり日午ハがーこう
まよとがれ事ヒセテテうきつじくねどつづくき今
おほーていふもる候とくまぬくもくきとみきれハヌツ
さ佐と金と作と老と文母めうせねう候て教よ候と
多來城ゆうと廢ゆとヤされハシル事とてゆうされね
先とくとて考候とはう事からく一け中ね翁よと被

八事の躰通那神也

今接帝よ蟻通明神ハ和泉國日根郡長瀧村に在
わくといふ古事談東齋隨筆秉和太政官符紀貫
之家集小毛蟻通而非代車法祀一寺れ定て不毛を
傳來乃社祀わむ——予未闇之但——右よ載信院古
日車代車小所もと矢竺囊且代車からま法苑珠林不
孝篇棄父部引襟寶藏經云世尊曰我於過去久
遠有國名棄老國彼國中有老人者皆遠驅棄石
一大臣其父年老依如國法應在驅遣大臣孝順
心所不忍乃深掘地作一密窟置父隨時孝養爾

時天神捉持二蛇著王殿上而作是言若別雄雌
汝國得安若不別者汝身及國七日之後悉當覆
滅王聞之心懷懊惱即與群臣參議斯事各自陳
謝稱不能別大臣歸家問其父父答云此事易別
以細輒物停蛇著上其蹤燒者當知是雄住不動
者當知是雌即如其言果別雌雄天神又以一栴
檀木方之正當問言何者是頭群臣無能答者太
臣又問父答云易知故著水中根必沉尾必舉
即以其言告禾神王問臣言爲是自知有人教汝
賴汝太智國土獲安臣答云非臣之智願施無畏

具陳王言有萬死之罪不可問臣白王言國有制令不聽養老臣有老父不忍驅遣藏者地中臣來應答盡是父智非臣之力願一切國土聽奉老王歎美普告天下不棄老右據句祖庭事苑云世傳舊事記孔子厄於陳穿九紗珠遇桑間女子授之後記云蜜爾思之思之蜜爾孔子遂曉乃以絲繫蠻引之以蜜而寢之考參一

新笠傳道祖神苑宋實方踰教と附實方雀也大後後云苑宋實方奧列大流苑名取邪笠傳及祖神比大馬小比大通大人大に大人大きに大人大ハ大作大山

城國出雲治道祖神のむとめあらまう高人よ嫁大て
親大勤當大されば國大下大されまへ大城國人大もま大い
也大もはかよ男女大於大り大か大隱相大は大て大休大れ
かきて大かよ大か大と大と大事大の大御身大を大都大比人大も
下大も大て大極大度大と大す大実方大わざ大きう大て大ね大ハト大昇大昇
也大や下大も及大もゆ大て大て大通大と大ま大よ大神大ひ大り大が大し
也大や下大も及大もゆ大て大て大通大と大ま大よ大神大ひ大り大が大し
也大や下大も及大もゆ大て大て大通大と大ま大よ大神大ひ大り大が大し
今按亦よ通祖神ハ猿田彦大神ナリ神代卷よ燐と梓大多
多大源大火大猿田彦大神天大遙大之大衢大小大出大向大と大き大夫

細女命、占經と仰み天照大神乃より御事ととゆひ
之をて相まひ若名も是猿田彦太神也と善すとわう紀
敏毛うよあがひと城もあら被よ冬を代天のやえとをぬ
くわきてくわく一束、絆我うじて新古今集に及
半う捕鎮座本縁云猿田彦大神宇遲土公氏人
遠祖也号事勝國勝長杖亦是也又云興玉神衢
神猿田彦太神五十鈴原地主神也乘氣死神名
畧記云伊勢度遇郡大土公神社ハ猿田彦太神也
坐行り山嶽國出雲後祖神も右同神ナリヤシニ
神とわきよる者右代統と高麗ちる也其輩也と

色怪々と道祖神比安内商人よ嫁して奥引よ追下
されし事正皮神藉よれて夕と假たる事知れ
一若俗後れとくんハ邪神ナリ箇祠ナリ秋仁傑ウ
素わく生小殿ら廢つる一 と川ナ後れりづくを盛唐の
うて陰相と底ナリカクナリ欲まつて傍ノもんがくもじくと化す
を付すかひうやくそくう西山そはまの水と饅てをめ能と渴
入寒方奥列よくうし事ハ今布物語在事後十洲松
寔寔就來并隨筆ゆと詫一射古今に西野の寒方
依りてトアラムコロトモテモトモ寒方伏非よ疏教毛
一やくすら之罪ナリと御乃希すと落ちて射平取
乃毛際る風よやうれわきよも小變もあらまれま

所入實方崔とからむ聲聲不外後とて乃事猶
久り我羽より後通し者かきれハシ崔よ
實方化一ころゆくは後接わゆへと毛竹也
守屋う家もとかられ豪う風とかりてやくの虛風也
おうそ天地化育によつて人傷生一男女の於内
てより生え生として生すと不よ葉代氣也
ひがとく其本れく又生と呼よハ乃くと來去也死ハ
そ春乃花よ乃くと昨日水火と日乃あふやくとく
一人くにあゆく半風とゆきとせんう一半ひ死して
殺一牛馬翁つとわゆからて人とうと後禽獸とか

うんや再生傷回乃流儀儀之而生也と至繩麻人面茶ひ差
を綴たらと此段訂補

七 大隅正八幡主ハ天竺陳大王九孫と云

俗傳云大隅正八幡主と字佑八幡主とハ別神たらむとぞ
天竺陳大王九女七紫也懷姫一かくら乃男子とくじ父
大王半れ人名子成也と同皇女にて我君に日暮守と
見て懷姫とまわるとゆくアミイもく先半く平小門と
室めて捨秦をろぐ一佛法流布大國よひて元生後利益
せよとて窓私よ母子代れとて滌海よ押流一まゆかく私
日本太隅國か若不代者とゆとも城門わまで二人ゆるを

唐書卷之三

至もひき後ゆ之服と君小を仕ふ者故隼人と号と
名ニサシテ政事ニ要畧云養老四年大隅向義因故隼人
礼をたゞと勅^{モト}して先に前ちの宇努前男ノヘトウム
將軍と次ハ幡大神ヨリテあまみび川村御く比隼人と
駿^{シマ}と大弓務^{ヒラフ}とわうせすよひ既發^{ヒタチ}て陳大王^{カミ}孫
乃事と仰^{アガ}と承^{スル}也と
新松浦^{ミララ}大明神ハ故尔廣縫^{ヒロツヌ}と紀^{ヒツ}事と云既
以北^{ミシ}事と云既

佐藤云藤原廣徳
ヲホニキテ
シテアタマ
アラモトヨシトウ
連して西廂より
下除大壯東ノ追討ヒ
名キツ
シテ
タシクシ
ナヒカシ
アラモトヨシトウ
彦徳ノ内ノ首級斬
リキサハカシモ官軍破
ル事無事也

化して赤き鏡と乍れ見る者ぞ多く死ふかよ祚といひ爾
今れ肥前國松浦後明神ナリ又いづく後明神ハ松浦作用
娘う靈ナリとばあす不代名とも松浦といふ又云作用娘う後
張りとめを祚よ経事もり

今接あよ松浦後明神ハ廣繼と紀ふにわゝと肥前風
土記云昔息長足娘神功皇后在松浦山遙覽國形而
勅祈曰天神地祇爲我助福乃用御鏡安置此處
其鏡化爲石而在山名曰鏡宮花鳥餘情云後山古
神功皇后化御鏡化して石よを生發成ミカニ山と云集落今
於あれ集ニわひえんとそまうはめにさくらやみ代也をもふもん源氏物
語あるつたまむるを浦の監くみとみるよりふもともくらうかみ代也と
おとめと浦ナリと曰ひ紀云神功皇后九年四月大崩國松

浦縣アカタよりとて御て出でゆく朕西行と財閥誠主とて
也と歎モニガと若成事わく魚釣成せし一とて竿カサとわ
おとよ細鱗魚成得アカシて室戸のこすとく希見物をも
少しお小時の人共不絶たりきて梅豆罷ツラとて今松浦と

リモル詫シテノリウム成生トハアハラ。故ニ吉通トアマカナリ。也ト乃事
是書偏トノ用ナガラ莫成化一ト未經聞トアヌモシ。也ト乃事

哉考ノ如クノ。此段小補

八巖鷦竹生鷦江鷦神ハ弁財天と云統^合三神と辰狐

王う女と曰シ

俗說云巖鷦竹生鷦江鷦神ハ弁財天とひわあハナヒ難女
也リ一後又ハ天竺辰狐王代三女日か小慈悲女天女と巖
鷦赤女ハ竹生鷦黒女ハ江鷦^{ヨク}也^{モサ}。

今樓子の名妄說^{フクモト}市杵鷦記云巖鷦八安藝國佐伯
郡比海中みわ^{モト}元^{モト}おんが代鷦^{モト}ひよ地とみうさ^{モト}候

少云巖鷦と云ハ市杵鷦照奈強犯^{タガ}有^モ号^{タガ}ト文鷦
と云ハ市杵乃多化の鷦有^モ在^カナリ又我^{タガ}ト^モシテ
祀^{タガ}多代三神^{田心姬余。市杵鷦照奈。相殿}四常<sup>天照太神。
天惠德耳。天德月食。天津美食。</sup>相殿^{素盞鳴}。

客人而社^{キツノ}天惠德耳。天德月食。天津美食。

延喜式云安藝

佐伯郡佐那伎^{佐那}佐社日本紀云天照太神乃索取
素^ソ麥^{サツ}鳥^{トリ}十握^{ハチ}敲打折^{ハシテ}爲^{スル}三股^{ミコト}吹^{スル}氣^{スル}噴^{スル}之^ヒ使^{スル}霧^{スル}

所生神號^{タガ}田心^{タガ}娘^{タガ}次滿津姬^{タガ}次市杵鷦始^{タガ}計^{タガ}二^{タガ}社^{タガ}と

祀^{タガ}て奉社^{タガ}と人推古天皇即位五年十一月十二日佐伯^{ササキ}織官^{ササキ}參^{ササキ}之^ヒ於宮下^{ササキ}然^カノ^カ伊^イ社^{ササキ}を建立^{ササキ}と三代寶源^{ササキ}云

貞觀元年正月廿七日申安藝國正^{ササキ}之^ヒ住下伊^イ於^{ササキ}佐^{ササキ}。

神授正三位上同九年十月十三日戊寅辰都役後神報
從四位上と恩人半身市持源詫數卷。○近江國竹生禰九郎
八字加伊龜稿女左口延喜式よ近江國浪井郡今支
須麻神社と乃て半身神社名竹生禰社宇望浦
魂御在近江國浪井郡古事記云素盞烏命取天山
祇之女大市比賣生大年神宇加之御魂神又云糧
名為嚴稻魂女食物和名類聚云倉稻魂和名字介
乃義太萬俗云二字加乃義太萬字氣者食之義也
食物よりまくら神ありぬよしの内裏御事モヤ一也
宇智門龜稿女左口御系圖宇賀御龜神相列後

鶴奈之山崎岳加云江神者宇賀魂稻女也辨
財天者淳屠假託爾坐之見原氏云最勝玉經小舟
羽天為彌浮之長姊又云在坎窟及河邊と記を存
多聞曰かゆてあ遠小猿山の神及女神と八年財天
少習合を除きとひともう続のふわくと世
宇賀神経と詐以て世小流布ノ一地義被祀など云
きのよ宇賀神之地義の靈迹と記と刻へ神事也
三年火天を以て宇賀神ハ昇り素姐娥月よりそれ
あるよ夫かと号をとやう口をうるそもや

通

儀既云速吸日女乃神ハ伊勢國より執安其祀乎云
今接よ伊豫國よりと龍女にわらと速吸日女社祀云
豊後海之郡作賀鄉より祀乎不速吸日女神社六庭
底古神。大後津日神。
赤云神。奈海系佐神。同殿より名主比と藤生清地小汀と曰
同本紀云伊弉諾尊親見泉國此既不祥故欲懼
除其穢惡乃往見栗門及速吸名門又云入水吹
生磐土命出水吹生大直日神又入吹生底土命
出吹生大後津日神又入吹生赤土命出吹生大
地海原諸神身曾貴祓所謂栗門及速吸名門乃
六杜乃神達と是也

御門と難ナリ。又吸名門と今ハ異様と云。佐贺冥乾より。神代口
巽一よりて。角東乃島名ナリ。作矣ハ祥ナリ。清きと有ア。
丁次云速吸名門在。豊後速吸女神社也。社説。文
武天皇大寶元年日向國造。一也。社號田茆。田茆總小
建立。田茆總とも凡と續。日本後紀云。承和十年九月
甲辰豐後國無位早吸咩神授正五位下。社説。よ
醍醐天皇昌泰年中。社と曲浦比清地。一也。建曲浦
今園の上浦ナリ。不入海ナリ。ヤセダムカ。星ト月半紀。
載神安天皇權根津美令。又達多比古ナリ。權根津美令
彦少主。出母。少主。孫武位起舍ノ子。少主。作矣。園乃比古モ
神少主。其社下浦。よわア修宮。ト。佑矣。支々。白泉源。不淨。
冥清輝。若仰。鼻。ち。等。

圓ノ傍ノ高良水。蘿ノ山。山傍ノ源。山源ノ水也。考ノ足矣。

九 大黑夷子代像の統

俗謂大黑九像とて皆成員像と脚總とて而亦曰九
或說よ此像を天竺の神なり佛教大師乃と紀始て叢山
小坐觀坐も又一統よハ大黒と猿田彦大祚主わどソ一統
云伊弉諾も伊弉冉も既もと坐後之年中モ是ト
シ多氣よこれと少くんて船よれきて風をすみくも船
すて終ふ其船はれぬよなれつまし不れ夷りうそ
て夷三帝と号と傳よ非に況一統よ西よ太山の神也
ナリ

今按あよ右代統名非ナリ山崎翁加大黒記云大
黒者大己貴命也其夏袋使胤之事見于舊事本
紀。舊事本紀古事記云大己貴命八上姬と尊りんとて尊稱而て其持樞
也蓋樞者土地也則地主神敬之表也夫大國主
大國玉是大己貴命之七名之其二也伊勢有大
黒谷接度類聚本源謂此大國玉也蓋國黑兩字
音同大黑之訓與大國玉相近大黑谷之訓與大
國玉相似又黑音與己貴近似則彼冊轉傳而誤
之耳。白井宗固云大黑乃像か一统よか否不詳よ
之防不省我少代俗ナリ又黑ハ水色毛小方子也水也

ノ旅ナシモサクノアラニテサリテスアリテ南海寄ぬ傳よりトヨウ佛
モ大日貴ノ像と云蛭子三年ナシト足トシテ原歎二休アルズ
ゆくんで船ヨリ出セシムルチムトツトコソリ一キタニ
トクヒキトモ時人ナシムハ一入ヨリわざれじあしハ勿
小幼児に行ひ眾も行ひてあんて殺ちとてキマシツルヤ度
會延佳神主云蛭四ハ云德比神ナシモ四季モ寄旺
三季ナシモ脚半トビ四季ナシテ御立ナリ春旺
一春九十日内十八日土旺ト今ハ秋旺一秋九十日内ト十八
日土旺ト水ト冬旺一冬九十日内ト十八日土旺ト四季

小十八日内ト土寄旺されハ本火土金水トシモ小七十音
ジテ旺ト原ナシモ四季ナシテハ土代旺ト原内ト十骨
ナシテ十八日ふ足ナリ故ナニヨニ足ナシテ脚半トシモ
ナシト脚向各又云天磐櫻樟樟木ヨリセテ風乃トシモ
殺ちトシモ土ハナシモナリ方ナシテ素隠ヨリ風ト土襄
ヨリ生ヌカセシムサ文わきハ土德ノ義シヨクワシモ
仕事ナシツルモ(伏代構)又云蛭四ハ弘接津國ナシル若
也モ観シトヨリ金事ニ云史補籍又云蛭四ハ弘接津國ナシル若
又夷子代像ハ奉代主金ナシモ奉代主ハ大日貴ナシ

山崎翁加夷子記云大己貴命初自經營中列而不
屏于天上其子事代主命遊行釣魚於出雲三穗
崎之時忽聽天神之敕則避而去之弗使父陷於
不義其德之至爲如何哉高皇產靈襄大己貴命
左慇懃矣神武天皇建八神殿大己貴事代主與
焉是故人家崇此父子二神者矣日本紀纂疏云事代主
之道可忠且孝者也二神之色小有邪氣附注此尤為小人家福
紳と云いよしのからへ

此段訂補

廣益俗說辨卷三

廣益俗說辨卷四目錄

神祇雜著

補 神明天より下を治ゆる者と云後
補 神も正直也頗るやどりきと云後
補 神の鳥也から蛇とかりす中跋かまくらかく比伏わ

續 神體とまくく傍後

補 神とまこと詔を傍るが故中署と云後
補 神代文字乃後

補 神代より本言語後

補
袖書室よ恵サキりあひと巧筆少く之能

三社訖宣乃既

人平生尤力と云詫宣代後

同六根清淨移此說

祖
猶道林嘗不思議有氣味

補
宋人之學
祚明儒士林守

續氏神氏子乃絕

補
ミサカノ祭禮乃經
ナカニシヤ
サクイレイ

續
教生會ノノ既

トモリ、シタ、イハ
一、二、三

同神事小勦滅令

補
三窟荒神ノ彌
訂正

續軍神二五刀印

同幕大臣比號

同
神明乃二王之號

同 袖前札約の統

同
諸神乃使者

同宮廻り北流
ヨリ 井久ヘウ

廣益俗說辨卷四

井澤長秀 輯錄

神祇部 雜著

補

神乃天よりはるか地下より來る也

俗說云神乃天よりはるか地下より來る也
わまくまくりゆきとくの雲がわきて下りゆくもとて從とくさ
ぐれあわせどき魚乃水よりよみをあたひよがまく熟れ
地とちつがくとくへてうづと理よくも半たり
今按かよは說神名と初の神を也候から直指抄云
皇都と天上とくよきのと神代とりても人代より天と
ハ神代乃禁裡ナリ白井氏云君ハ天德と縫て天よ加

補 繕 繕 繕

わまくよみを乃說

木綿纏乃說

月待

月待

庚申待

續

補

祈禱乃說

禁咒乃說

俗說云非公所遺此頃少卿之使
事多不以爲然某之書亦未嘗

ハシムトヨタカラモ物とくか事出本トトロトカモ
多々重代ニヨリ行ひ多色を取るがからにて神の感應
ナリモ次カトモ古經と云ふ事ヤドカルト云カトモ
今接カヨリ耶カラモ星ハ鬼郭ニ通ク神代口次ヨ古諾
大道而辭假嬰兒心求神聖コトハクリエイチニマロハモトムシシヤイニ
ナリヤミテ観わゆもてツアヨハ童代ニモ熟氣足
ハヨリ御セキレトキニ此承被りまキナム氣微量ナリヒキ
小ウルおきたり神ニ正也改よ座カウヘムホトツ火候ト
倭娘也記同心神則天地本基コトハスナハキアメツチノモト
行金水化生奈利カムカユニモトメイリモトハシミモトムサス
任

本心 天地同體神人合一之理と 神岳山川祈壽爲先
事とよりて常よ 宦加欲正直爲本 感應わうどり
誠と盡とりよ 雖照六合須照正直頭
雖照六合須照正直頭 莫亦代御教よ ひまよまよまよ
能やまくもん是身代私欲よ克て其心代神祇全く
生じよがく とほとりよかとあく せんと思つて身に残害よ
毛れと去るゝもよがりよかく かくされハ其心終モ
かならうと圓鏡能くまの事伏かうゆとふひかえれ
よを唯凡半身にかみ出まくとくさんと因へるよ
て荒乞比工丈をきと紀ハ正直めんを前まわすと
軽ひなすとソトを正理よわをされハあたうち聲も

異どひとひ年強りぬうと一うち先へみとあどり
生を経よか成つせれハとちもんを思ふを又
古事くみこはもともじまかよもと來るよゆゑと
其れにえあはむ事ハ本心比めウタふ御く凡
極と先儒代說よわづめいともとちもとじと
泥土よあらざれて志りふらもと其ふらもと云
ト記がりとれどもあづく人多んをまきと
是正也然ちもあまぢ
補神明多とたゞと配とたちを中とまきり形と便

俗同書よ神明あひハ鳥とおり蛇となりて人よまえ
へまひ又も中残かまう眼前よからぬわくもま
坐ほ

今接ふる神明もとあり蟲となりてわくもれふ
事非たりたゞも人々萬物は長半うたひに近ひ
ら従ふきへうとはあよまたわくり鳴て禽獸も
つと紀き柔懦者とくとも忽つて禽獸りけうて
ても其讐言伏縷さんと云うと是禽獸也と云
玉紙とをつかふと人偏もとを紙かせうといふ
や神明いうて禽獸の變化す由アんや又神虛雲

飛^ヒ翠^{スミ}もと残^リとテ^{シテ}流^リ水^{ミツ}から虚空^{コトハ}残^リをかへむ類^{テラ}
かう神^ミと人^カ在^リ翠^{スミ}碧^{タチ}りも残^リと虛^{クタ}を残^リと經^リ
赤^レづれかし又眼^{カニ}赤^キよかづら残^リと^{シテ}残^リと^{シテ}
流^リ水^{ミツ}をり引^{イシ}て感^{カニラ}應^{カニラ}わふと^{シテ}残^リやすりと^{シテ}残^リ
但^タ一羽^ヒ翠^{スミ}こりよゆるゆりと^{シテ}いのふと^{シテ}すと^{シテ}乳^{ヤエ}様^{ヨウ}と
もくの精^{セイ}明^{メイ}残^リと左^{ヒタリ}れをかわよ^シと^{シテ}右^{ヒテ}れ左^{ヒタリ}右^{ヒテ}れ
物^{モノ}残^リよ^シと^{シテ}左^{ヒタリ}れ左^{ヒテ}右^{ヒタリ}右^{ヒテ}れ^レ事^{モノ}ぐ
ご^シづく^シかよ^シて如^シ生^リ滅^ス滅^スと^{シテ}さばきらむよ
感^{カク}格^{カク}もあべ^シかゆと^{シテ}残^リ紀^スすと^{シテ}さかと^{シテ}神^ミ社^マ
うど^シ己^シう情^{ヨク}と^{シテ}争^シんと^{シテ}残^リが^シて^シゆうひれどく

かしもう燈明残まん繪馬と掛んかくいれをす
くひわく善人わくてあまく代引よくもじゆ神
けりきのく活綱かくて邪神かくく

續 神異於役忌役

俗写社より神移ときまみゑ立れ多一

今接あよ派なり鎮座傳記云圓常立尊虛而有
靈一而無體也わくそれ神と天地の公人と天下下
此神物かくて其心を神明乃含たるもとをもと
神と人と二つわくこと兩法と明よと公と紀と其
も天象よとて圓常立の分神を威得と公と紀と其

臣穢よ所譖る天尔ト神留坐也ハ後既とワ事モ
かく天津祝祠也太祐祠とどめて太虛え理比聖
神と妙法也て自己固有の神明を威得と公と其
法理よとて上古ハ明後とつきて神靈よ表せ
後よとてうち聖金もとをへよと人那佛小
故門て畫像本像とまくほをばく神靈不測
乃妙なんそ金木圖畫よ摸とて絵滑人や程伊川
曰今人以影祭。一毘髮不相似則所祭已是別人
也わく鬼や神明もや繫慢ば罪恐ふ也
補 神とかくと訓と公ハ加ノ先中墨と云

俗說云神とからゆもじハ豫々訓ノ中畧から

見尔益軒云かみいよからもうみの字でまよひ
古指抄より見えまく又陰陽ハ和訓とぎみとひと
きと相通あきへ陰陽との意をわふべ一神之陰
陽乃靈石後ハナリ後代中乃がの字紙略とすと
承統わく祀由古指抄よりくわる後ろにまこと
まこととぞくよかみの号ハ有べ一とれ字のふ別と
うそどして後とみて附會まとくとてかうう類
皆もう事なり 日本釋名

續 神代文字の條

俗向巫覡等神代の文字たるも字て符章よ書トカウ
今核あくの神代小文字乎一日本紀纂疏云上古
無文字縛縛刻木且為之約漢字我應神時東漸
補朝野群載大江国房官隸記云應神天皇神靈
也我朝書文字劍於此朝
神皇正統記應神天皇時云
日本國史及文字使用が事
也古語拾遺序云上古之世未有文字貴賤老
少口口相傳三善清行昌泰四年勘文云上古之
事皆出口傳故代々之事變應遺漏補宋史云應
歲始終百濟宋史云應
得中國文字也天皇甲辰
武帝代御字小字ドする日本紀よ天武帝十一年

兩午命壇部連石積等更肇偶造新字一部四十
四卷也。舊今貝尔爲信云今巫覡之家よ上古
乃和字と称し。翁小書ハ連生八歲不求人等小戴
半周中華道士比翁章の書偽字不う然もとて
上古代和字と思へるハ固陋矣。和事始此而
乃從残考へるべ。抱朴子解夢全書をどゆと翁も字也。
此段加小補

補 神代より本吉語後

俗說云神代卷より草本咸能云湯くわすハ多怪能
威佛名れ理をもとせり。

今按あり。古代說非なり度會延佳神生云天孫

補 神書よりあらじめとわ多能
俗說云神書もとわすとせり。翁れ御ノリ。多能者
今按かよ神トは性カレど神書の文様よ近いて纏と
色ハ假よ似半てとももよもと深理カレ。翁代
卷より伊勢翁再び四山海本然うもあく。

補 神書よりあらじめとわ多能
俗說云神書もとわすとせり。翁れ御ノリ。多能者
今按かよ神トは性カレど神書の文様よ近いて纏と
色ハ假よ似半てとももよもと深理カレ。翁代
卷より伊勢翁再び四山海本然うもあく。

人と見て遂化と云ひ形の二事よりもと陽神を
旋陰神右旋分巡四極とある陰陽運行故に之
外凡例の如くして怪よハヤシどい。伊予馮理生
之者程伊川の人たちもさう先生も。じくにて教へ
どいがる奇特うやうやしく先生はうなめことどゆく所
和宴室下氣と化室中先生はうとよとよ先生頗る又
奇特の來りやせんれいよ馮理これをしてハ先生
養て食とあらむたがまくと飽とよまれらるゝやう人
鬼物とえがとつまきかう伊川などとまくされハまち
まくされや人ほそハ信をひよ是とよみわうんべ

眼病モウアレルヒーと云ふ事各二程全書によくある
怪力丸と云ふ所也

續三社託宣の説

俗向よ三社託宣とて羅布を除むれど此うと云
神媛姫皇女よ若狭守とひわらひに正應奉中よは客
大和西東南院の池よりがとひ其託宣左小説と

天照太神宮

正應セイエイ雖タチ非アリ一タ旦タマ之エ依エ情終エニシテ義ヨウ日ヒ月ツキ之エ隠謀計雖タチ爲ス服フ
亦タ之エ利潤必タマス義ヨウ神明カミノミコト之エ罰ヲ

八幡大菩薩

廣益言辛卷四
雖食鐵丸不受心病人之物雖噉銅礬不到心穢人
之處

春日大明神

雖鬼千日注連不到^ノ秋見之家雖為重服深厚可趣
慈悲之室

今樓乃^ノ此宣俗方^ノ傳^ノ多^ノ有^ノ史實^ノ祿
神書^ノ小^ノ及^ノ其^ノ語^ノ其^ノ理^ノ法^ノ一^ノ無^ノ法^ノ
肝^ノ渉^ノ名^ノ集^ノ聲^ノ德^ノ大^ノ仰^ノ之^ノ而^ノ條^ノ計^ノ雖^ノ為^ノ服^ノ
並ニアタリ
亦^ノ利潤^ノ終常佛神^ノ罰^ノ生^ノ雖^ノ非^ノ一^ノ日^ノ依^ノ怙^ノ凶^ノ
義^ノ月^ノ之^ノ食^ノ記^ノ無^ノ之^ノ三^ノ社^ノ託^ノ宣^ノ八^ノ鹿^ノ戶^ノ皇^ノ子^ノ說^ノ

神託^ノ妄作^ノ也^ノ此^ノ紙^ノ信^ノ所^ノ有^ノ也^ノ是^ノ事^ノ

有^ノ

續人平^ノ小生^ノ凡^ノ力^ノと^ノ託^ノ宣^ノ統

俗^ノ從^ノ人^ノ偏^ノ乃^ノ生^ノ生^ノ十^ノ氣^ノ天^ノ聖^ノ生^ノ神^ノ力^ノは^ノ是^ノ
是^ノに^ノ以^ノて^ノ保^ノ護^ノ二^ノ字^ノノ^ノ平^ノ生^ノ凡^ノ力^ノと^ノ神^ノ化^ノう出^ノ
半^ノう^ノと^ノ火^ノ

今樓^ノあ^ノ那^ノう^ノと^ノ保^ノ護^ノ旁^ノハ^ノ尹^ノ字^ノ外^ノて^ノ平^ノ家^ノ
わ^ノう^ノと^ノ勞^ノ家^ノ外^ノ偏^ノハ^ノ幸^ノ字^ノ行^ノて^ノ生^ノま^ノう^ノと^ノ強^ノ
二字^ノう^ノと^ノ漢^ノ文^ノ大^ノ偏^ノハ^ノ幸^ノ字^ノ行^ノハ^ノ甚^ノ懶^ノ也^ノ山^ノ務^ノ急^ノか^ノ本^ノ
朝^ノ社^ノ語^ノ少^ノ色^ノ伊^ノ嫌^ノ則^ノ五^ノ歲^ノ二^ノ字^ノく^ノ倭^ノ訓^ノ出^ノ自^ノ五^ノ十^ノ斧^ノ

之名也 伊織風云記云取國神位織車矣今少立之可也不正此
妄統ハ御く多字が或れて真字が假物也其事云ひせ
けとす。

續 六根清淨後乃後

後乃よ六根清淨後とソモウカノアリ ひま候居ヨロウムアリ
ま物也ハカレトニ傳ハ

今極引よは後よ天照皇大神乃宣之人彼天下乃
神物奉利須掌辟謐心 依則神明乃本主他利莫
令傷心神トシムアサヒハ寢基本紀よ不載此神託
ナリ是故仁因仁諸乃不淨キ見ミテ 宅ツアラ下ハ

法華經小眼根清淨耳鼻舌身意根清淨得是六
根清淨又云内外俱淨又云發大清淨願補圓覺
經云六根清淨善欲心生普賢經云樂得六根清
淨者當學是觀六根ハ眼と色根ト耳と聞根ト鼻と
意と法根と汝少くわす後除へうひ左ア火眼と右
近世ハ後ア後伏伏シ氣者曰か死ヨ伊弊猶モ火眼
紫目向櫛之櫛原ヨ後除へうひ左ア火眼と右
右の眼と火人と云ひ伏引てこぬくに火人ナセモ
後乃倡よ諸法如影像影大日清淨無假穢假禮
作上火人作於大日經無下執ヨリナラ火人ナル
礙取說不可得蘿言證皆從因業生とわるも

六日經金剛界禮懺文不空三乃偈也もあひて
臂合者流乃妄化ナシテ紙也

此後加訂補

補 神道次第學ふらむハ不思議り氣続

佐爾神道次第學ふらむハ不思議り氣続

色まく次つゞく不思議ハ加護わうせりすの多
今接かに神道ハ脩身齊家治國平天下乃敷す
わやア化術も氣よりとあやゝめ事わ氣ハ幻術
もりもれたり二程全書より氣人程みよ向てハ
多く水火白刃伏ぬんて事よ氣とトナヒミ垂跡も又
あ絶どくもすとウエヨリモヤ殺す事でハ見

まゆきかと歌公曉道伏してあ修業すノ常小
人をわきじく代術とらうほのまことせりの事わん
やもと向きしはとくら其能をかきハ仰る
程又西方向の幻術アリ變化神通とぞとく荒人比
耳同就ねくろうとくともく々幻たるも至附アハ體
其餘緒のとて刀をまく考和ト

補 神社の縁起說

俗說云神社乃由來と云亦くる代縁起と云

今接多く神社由來と書字をかと縁起と云ふ事
をも縁起乃字を佛家もく聖もく法華經方使

品云佛種從緣起楞伽經云佛說緣起とわり云
考へ御名

考入部

補
補明儒士林先生之集

儒院云作明佛と考へ人情庵と舊と申す一八〇〇年秋月也

今按あよ神明佛とまひ修成は後アト徳書
みたゞ人中序ハ佛も比禡也ナリ承書よ佛事と難
シカニ於て佛名乃カ筆ナラモ各傳ナシヨウモ
又神明儒士文人をすとアソビモトトヽ取ナラモ橋直幹
文章博士ナシヨウモセ寔比終トガシテ妙流罪よき六

まちまちうらはあまくせぬすけき少くすよもうてくいひと
くふえどりよ。灵験とがくゆり流刑としまねうを
のよひと因みらまくある云部を浦よがされ
すり又勝原相親う姓丈と天神りて玉櫻りとみ
又大江奉周位を付よ引つまくお感よもじて母み安
金とくまかとあく又大江匡房天海まく代灵験とが
姫つまく車わく古今著聞集よ是と申すう其餘
かのとくめあひひれ多く近世洛陽北山邊多加
藤森社乃実験とがくゆ同不乃白井宗固小壁元
灵験とがくゆ車土ノの碑よわく又撫陽北禍

從道祐天滿宮代神而至感應也——奉霧氏の
儼塾集より是半より佐徳乃りやより考へて又——

續 氏神氏子代祀

俗向より秋ノ子まれし而先地主神と氏神とり其身を
氏子也

今按而よ其神地より生れしを代ハ參云神とハ
ノ居——氏神とハノ居うと氏神氏子とノ居と
あと八藤原氏代人名代先祖天兒屋根命也
然うて氏神と称——我身と氏子と唱ふ事と有
空也

補 宮社代祭禮ノ説

俗向神社代祭禮よハ佛者ともモト不古法より
えあとあは

今按而よカヘ神祇官と八省ノ首よ至て伯副祇
史ち以て神祇及代奉代於もじ毎年二月四月祈
年乃祭也そ猪玆ノ奉幣もけ日六十餘州も
各國守スムソシ齋戒して祝部と國府より行ひて
幣と祝文古記よ詳たり上古神道と崇敬
祭祀と報行も多事實代知——今諸社代祭
禮よ佛者と色代也——もく並ハ本教督會以來代事

アリ延喜式云伊勢齋宮忌詞佛稱中子或立
經稱深紙塔稱阿良々伎寺稱凡嘗僧稱髮長尼
稱女髮長鎮坐傳記倭姬世記寶基本記等載神
託曰屏佛法息寶基本記曰不預穢惡惡不淨之
物靈神所惡佛法等是也禁秘抄云神事六種忌
之中不預穢惡總惡佛事又云忌佛法言類聚
神祇本源云神人守混沌之始屏佛法之息同書
篇詳載下忌禁戒
佛法之事文保記廳宜云二所太神宮者元々木
本以清淨爲先屏佛法息以正直爲宗再拜神祇
故禁經教忌僧尼誠妖言退巫覡皆神明之遺勅

ニ宮之規範也と仰る代よりて佛と深き
ある故也一あくとせぐり通むるて神殿
ゆゑ佛像とあくと至社也ハ梵宇と建テ人畜ヲ
除ねと見てハ銅磬とかくー佛經然うやうか
朝のとゆくわくとゆくふくと奉事ひ
程子代説よ釋氏道場よ螺銅と用柱蓋胡人ノ
樂なり天竺乃ハ僧とたまんとあがよ傍、紙金
ハラモト釦を梵樂代前よ不きしむ今これと
死一キル者代前よかく寂徒ノ勸慶修持死ゆ
まじ用ゆ
是何比義理モカ此ノ紀事他

よもよしむ事何れも千百年に亘り一人をさ
やまことのゆき二程全書を見ゆる近世社
乃參禮^{ナツリ}遺風^{ナガシモード}ありけり

續放生會記說

俗間^ハ八幡^ハ參^ハ來^ハに放生會^ハりてわ^ハ養老^ハ
四年九月乃^ハ神託^ハよ^ハてわ^ハ小^ハか^ハ魚^ハと^ハ之^ハ
ち^ハかに^ハか^ハ鳥^ハと^ハ成^ハか^ハ門^トそ^ハア^ハ魚^ハ
よ^ハ魚^ハ鳥^ハと^ハ人^ハ食^ハよ^ハれ^ハキ^ハか^ハく^ハ
私生^ハ益^ハ車^トも^ハ者^モわ^ハ

今樓^ト生^ハ紙^ト教^ハあく^ハ六^ハ神^ト明^ハ清^ハ公^ハ

へ^ハれ^ハ今^ハ乃^ハ世^ト法^ト放^ハ生^ハハ^ハ理^トわ^ハす^ハぬ^トも^ハと^ハ
事文類聚^ハ歐陽永叔跋^ハ放生池碑^ハ云放生池唐^ハ
世處處有^ハ之王者仁澤及於草木昆蟲使^ハ下物必
遂^ハ其生^ハ而不爲^ハ私惠^ハ也惟天地生萬物所以資於
人然代天治物者常爲^ハ之節使其足用而取之不
過^ハ物物得^ハ遂^ハ其生^ハ而不夭王代政如斯而已易大
傳曰庖犧氏之王也能通神明之德以類萬物之
情作結繩而爲網罟以佃以漁蓋言其始教民取
物資生以爲萬世之利此所以爲聖人也淳屠氏
之說乃謂殺物有罪而放生者得福苟如其言則

庖犧氏遂爲人間之聖人地下之罪人矣
乃偏執之使不得成奉之淳厚氏
世說新語補云北使李
譖魏國至南梁武與之遊歷至放生處帝問曰彼
卿放生否諸答云不取亦不放帝大慚
見之而放得
列子云鄭之民以正月之旦獻鳩於
簡子簡子大悅厚賞之客問其故簡子曰正且放
生示有恩也客曰民知君之欲放之故競而捕之
死者衆矣若欲生之不若禁民勿捕捕而放之恩
過不相補矣簡子曰然
牛羊之類皆有之而猶以爲少者則不知其所以然也
人之類皆有之而猶以爲多者則不知其所以然也

是筆之序考へて俗有放生比理よりて是爲無事
又魚鳥之類人之所食よ儀よ儀よ儀よ儀よ儀よ儀
列子云天地萬物與我並生類也類無貴賤徒人
少大智力而相制送相食非相爲而生之人取可
食者食之豈天本爲人生之是蚊蚋噲膚虎狼食
肉非天本爲蚊蚋生人爲虎狼生肉者也少大智力
然考之

續神農小獸と食よ儀よ儀よ儀よ儀よ儀よ儀
俗說云神農の獸と食よ儀よ儀よ儀よ儀よ儀よ儀
馬非天本爲蚊蚋生人爲虎狼生肉者也少大智力
然考之

とくや紀國す御衣歎と從すしてうらめし備磨の
事ひをして後つて牛の強くりぬへ一見遠慮せむ作
乃急ニテモ死を氣に代りりと

今接觸よび近接々勲と食す氣と忌と神代

ももわく古語拾遺云昔在神代大地主神營田
之日以牛完食田人于時御歲神發怒以蝗放其
田苗葉忽枯損似篠竹補文保記曰食猪麻人忌
百日同火人廿一日桐火三日古老口實傳云不食四
堅魚称鹿食用之間即有灵夢告足壽永一祿宜安草
五月廿一日率去神異記云後院傍正記云禁裏
小臣是もとどもとぞもとどもとぞもとどもとぞもと
院もとどもとぞもとぞもとぞもとぞもとぞもとぞもと
それハ計合御山後里山にて御幸勿々也かひ生れ
と色又走御北奥よ還幸勿々櫛引の前よハ一日序
附ヒツセ経ソト先モアーナリ天照大御神御
小多シセ多ヒキ房左からと人ノ御ナ合とけ次
じわ多岐考ヘミテノ一此後加訂補

補

三寶荒神ノ經

告誥云安國天皇御御宇近江四甲賀郡由良里北云民
支婦婢女と竈神より祀るけん三寶荒神と稱と
一經中と青面金剛とどもわ多ハ鳥汝麻の時まづ

吳邦人書也。老婦黃羊致生子也。○補一說云
三寶荒神。乃移也。家之火。火也。○海つもれ
ハ急。よあく。つまり。放取。一も。従く。火災。難。す。あわう。次第
今接。そ。三寶。ハ釋家代。後。佛法僧。と。三寶。是。荒神
と。之。因。本。絕。不。禡。千。早。振。荒振。邪神。れ。す。八。放。つ。今
義。小。を。ひ。て。相。う。方。を。以。次。又。近。に。ア。去。民。主。面。令。劉。鳥
沙摩。の。主。老婦。黃羊。ア。祝。那。ラ。竈。神。も。舊。事。紀。
云。大。年。神。子。興。津。庚。命。興。津。姬。命。諸。人。拜。祠。竈。神。
○度。會。延。經。神。主。云。興。津。鍾。訓。平。波。說。文。云。聚。也。
舊。事。紀。云。軒。遇。突。智。腹。化。爲。興。山。祇。腹。中。央。也。神。

官。興。玉。土。地。靈。也。文。德。實。錄。云。大。坎。寮。太。八。鴻。龜。
神。大。坎。式。云。龜。神。八。座。按。龜。土。受。火。氣。旅。物。與。大。
八。洲。靈。同。德。古。事。記。大。歲。神。子。九。男。其。第。七。香。山。
戶。臣。神。配。八。方。爲。正。南。方。加。萬。止。香。山。戶。之。略。香。
火。也。萬。止。山。戶。也。火。氣。至。土。中。底。物。之。名。也。上。試。
脫。殘。用。起。又。三。寶。荒。神。と。移。也。八。家。こ。み。い。ろ。か。
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。従。く。火。災。難。あ。う。
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。是。命。から。荒。神。と。移。也。と。まれ。で。と。得。て。火。貨。
と。火。死。と。除。者。比。令。と。ア。だ。と。う。え。う。者。掌。の。庄。と。

續軍神三天夜說

俗向よ摩利支天大黒天^{ニリ}、
弁財天^{ニシ}と車神^{ニシ}三^ニ天^ニ也。

今樓立摩利支天古諸天傳小見ノ大黒天ミ南海
寄歸傳佛祖通載此書弘大黒經ヨリ見ニ
金光明經ム見ニ黒色ハ各西城ノ鬼也テ秋朝代神
也ト行毛と称シ休多羅子也ト此禮ナリ若秋朝小
もヨリま月軍神トアリ也トハ經津主命武甕越
命ナリノ一册ニ神ハ天孫乃命也トケノ一卷也
豐葦原仲國ヨリも不傳邪神トアリ也ト傳少功
ナリ

續醫神藥師佛乃絕

俗向より醫師等醫代祖神ナリとて藥師佛ニシテ信シ
者多シ

今樓房より大矢を從フモ天至りてハ藥師トニシムアモ
且ウキテハ神農トシムアモ秋羽シハニ己貴命少差
名命トシムアモハニ日本紀云大己貴與少差名命
戮カアレ心經營天下復烏顯見蒼生則定其療病
之方トカラム然シムテホ羽リテ醫方此祖アリト
教ノ一補原益軒翁云今民俗野老里嫗之所
口傳之方法有效驗而不出于中華之書奇甚多
矣雖無方書而不知其出于上世恐是上古二神
希ナリ

之所定亦未可知也一書云孫子邈千金方
渡テ後日本ノ方書絶タリ足智代況
と考ヘアヌ批假訂補

續箭大臣の統

俗向神門の左右より箭大臣と云て姿亞と其名を有者
希ナリ

今樓房より舊事紀より豐磐向戸隼櫛磐間戸隼二
神ナリて殿門と字ムシヒトカイ今力萬大臣ハ二神
ナリ

續神門名二王九統

俗向より神門」二王と姿亞とこれ金剛神ナリと云

今接易よ金剛神と佛門よ垂ハ是アヘ神門承
至るを承ナシモ秘藏記云間所外諸寺門造立金剛
形像如何答金剛智也此智摧滅煩惱譬喻如金剛
強力摧破諸物其閑發心實相門以智慧故先門
立金剛門置佛身佛身本來自性理也鑿囊持云
とニヨモウツトマサナリニヨモトツト中門より多雨持因の二天と
至東方東方持因の二天とニヨモニヨモツトマサナリ人
乃ニヨモトツト全剣の形像とツツ正法念經云昔有
はなよ古き書ある故全剣也モシモシ正法念經云昔有
國主夫人生千子欲試當來成佛次第拘留孫佛
探得第一壽釋迦第四壽乃至樓至當千壽第二
夫人生二子一願爲梵王請千兄轉法次願爲密

續神弟乃狗也

跡金剛神護千兄教法あり人云く経よハ一人あれとのた
下學集小毛は從と戒て後人獨之門弟二十五也坐
わが紙考へ知尼

物とス

今接易ふ神功皇后も乘玉紙月か代狗がりと比
ますひとつてすと美少と名見よ大醉亦食せ半紙
うりち人ふをばなり洋の皇后教小託とゆうと

云々。神代物と曰ふ紀火酢芥余苗裔諸集
トラ イタツミニ
人等至今不離天皇之宮嚮之傍代武杓而奉事
モチ
者也神代口伎よ狗人者罵惡神代吹杓而奉事
テイバ
者也太嘗會日群臣初入宮中時隼人發聲立
ハリスミトヨリスミテ
走乃止進於楯前拍手歌舞者云杓吠神代遺風
モトヨリカニトヨリトヨリトヨリトヨリトヨリ
也此から漢友也と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
ものかん

續
諸神乃使者也。從

俗説は月夜の猿八幡の鳴稻荷社の御春日乃麻祭神社
カラス アタユ
トニ
カヌ ケニ
サキ
キウレヤ ツガ
タマ
爲毛鬼神社の鷹松尾乃鬼氣社を御事其之又社の神

八九ノテ接取

續 宮廻志說

俗向小神社よまくかかうと社内を三度廻くゆふ
とえ廻とかづく

今接あよ接取 わゑ祝よ神代卷よ伊賀 諸事伊
弊典言以 濱駆廬鴻為國中之柱而陽神左旋陰
神右旋分巡國柱少わゑと引くえめくつめ神と
それれ色なんそ凡人坐てニモ休まかんやさすよ
法華經從地涌出品小禮佛三師すむわゑ詔聞多
習會者流のまくせと云ふとけうへ

續 鳥長華表乃說

俗向鳥表と華表少記と傳き比多

今接あよ鳥表と華表との別ならむ鳥表ハ上右比門也
華表ハ因介する形ノヘ既小事文類繋接神貌考小
遼犬城門外有華表柱忽有ニ白鶴集頭附五ニ
少年弓欲射之鶴乃飛去空中而言曰有鳥有
鳥丁令威とわゑ後と引くる接比證とそれとを中
華古今注云堯設諫謗之本今之華表也以構木
支柱頭狀如華形如桔槔大路交衢悉施焉事物
紀原云華表後人立於塚墓之前以記其識也應

鹿苑集 卷之三
劭曰、今宮外梁頭四柱木是也、且列仙全傳より尋
春代圖わづ、鳥居とハシカガモトニシ吳子り考へ又云
多ニ振よふくわづを世やけれ、此段訂補
祐之名周よひわづス事アリ

補
狗毛乃脫

依頼より拘系ハ御代代人をナ故法方ラシムと云

今接あよ狗子ハ上古秋胡貴人を絆と成比後有り此
在ノヨリ骨紀ヨ持統天皇四年正月即位比と記公卿
百寮皆其前也抱き合ひて喜び相撲とわつ見不着焉
云々其後もノ北緒ミ九枚とて九枚わづ四枚と相撲
少しこそ紙うのちあり色ムノシテ振動殊と云有り矣

補天添運
廿二年正月

古之禮儀用事より 周禮疏より是と半なり 鮎客叢書卷之九
云振鈸以兩手相擊也 因年中て今を神と號すとあよ用於西峯松下
見林立かと云ひハ開手比意を以て用ひて此の
年方立と抱善氣比ト一度會延住神主神官秘傳同
卷云韻會小補動比中に倭人絃を氣よあのを以相撲
川流より上古れ稀禮ナリ考へる事へ
■浦 天流連名也
倭流云海乃連名と云ふを以て其を號すと云ひ
今樓あよわゆのうて山の爲めに草むしをばらふ事ゆわ
不徒も舊事紀云事代主命謂其父曰今天神有社

備問之勅我父當奉避吾亦不可違因於海中造
八重蒼柴籠蹈船柂而天之洋手打而青柴垣打出
隱古事記云事代主神語其父大神云恐之此國
者立奉天神之御子即蹈頌其船而天逆手矣青
柴垣打底而隱也日本紀云柴日本紀纂疏云事
代主有意忘世而爲隱者之事也神代口決云事
代主因於海中者避土地也避之者隱退也白井
翁曰天比遜少とひの神祇よ我公比寔然り人
て坐と仰と仰よするからり通すく門く神小若
ちう坐と奉代主令坐り坐と遺風然後きて今小

まことかれてはひたり遜乃字とよりさゆ
るひ天なる字を海ゆきて鑿孔サツ穿孔すく海ハ不
非ナラモ神代私祝サクシフは祭代考へ多尼一

補

不綿縫の続

後後云御道汎木綿縫ハ佛家乃袈裟次第至多也
ナラモ

今按此よ木綿縫ハ佛衣也袈裟也ナラモと作
代よ木の歴を清し禪セイシムとぞ所ども之令三度乞
祐來カミタマあき誠カミタマとて妙氣ミヤキをもと慶カウキ基本龍云
木綿謂シテ木作自取幣シテ天神七代地神五代補

人皆着木皮藤綿連之衣縫也繅齋之曰瀟灑之
祭服是其緣也以木真爲明名故也日本紀云太
日鷦神爲作木綿者同名恭帝紀云諸人各著木
綿手織成也即柔摩其後為之舊事紀云令津
昨見神種殖穀綿故作白和幣舊事紀頭書云倭
綿折之多白絲者也和名波比未由羨又云繩玉
篇云指穀木也和名加知字彙云穀皮可爲紙薩
機云荆陽謂之穀中別謂之指今換木綿穀也杜
仲也榜也陶隱居本草註云杜仲一名木綿折之
多自絲者也摩剥其皮因謂之木綿古語拾遺云令天日鷦神造木
綿津昨見神穀木種殖以作白和幣是木綿也古
云青和幣造外麻謂藁也。陽也語拾遺句解
自和幣造以穀謂之木綿也。陰也 豊後風土記云速

見郡袖富鄉在郡西此鄉之中榜樹多生常取榜以
造木綿因曰袖富鄉。袖宮雜例集云忌部外從五
位下行豐後介齋部宿祢孝茂加弱肩仁太織取
懸天。袖事隨筆載木綿織云宣命小忌部弱肩仁
太織立室也此也是也木綿麻並羽絨於
古今木綿織八麻代用也。是也。是也。考へて佛氏の
袈裟の事もひよわきを知る

續月侍月侍唐申侍乃既

佐向ノ僧徒巫祓にて月侍月侍唐申侍とナセト此
至現云神乃ゆも月侍ナリ天照大神といはれどアハア

今按禹ヨリ各承ナリ天子ハ天地と參リ備侯ハ社稷を
參リ 補白虎通云封レ土立レ社示レ有ニ土尊祿五穀之長故封レ祿祭也大主ハ五祀ト
馬門也自虎通云謂門戸井竈中靈也皆之れノ右分限也
不生也氣也方多孤卑俗尤下氣と云也每ハ僭妄

乃罪甚ハシマツ。南秋江ウタガ後アフ。同ドウ內ナカニ星辰ヒツシム。非ハ天子テイジ則ハシマツ不ハシマツ祭巫マツヒ設セツ七星セブン之ノ神ミツ。名メイ山川サンクワ。非ハシマツ諸侯サムライ。則ハシマツ不ハシマツ祭巫マツヒ。引ヒ山川サンクワ之ノ神ミツ。強タケル為スル無ムカシ替ハシマツ之ノ說シラフ。乃テ為スル無ムカシ益ヨリ之ノ費ヨリ。補ヒ山サン。

於へゆゑりう釋氏をたゞひて曰やら月やら
空も酒波がま基双六とうもて取れりノ羽林
あへぬれりやくらぬきもふかとてぬるとほい
やもねととくの罪波ノア見さかがねしも
やちゆくつとか邪乃巫史紳者よ魯てトハ半身
ミハ其わやちりと多ノ又守庚申使あまこととぞ
奉る上感應編註^{モウジンヒンツキ}よ三守庚申三戸伏七守庚
申三戸滅守者不寐也とわゆるよきは事う其餘
邊生八族^{ハチジク}ノ守庚申法一篇やう抱朴子酉陽雜俎姐
ゆき守庚申^{カウシナ}一脉載^{カウシナ}と是通士氏私法みて非儒及

佛道あひどひりてたゞ紀本からこれかよ祖庭事死す
三戸非佛經所出出道家とひし彌僧皮累穴近聞
周鄭之地邑社多結守唐申會初集鳴鑠鉦唱佛
歌譜衆人念佛行道或動絲竹一夕不睡以避三
彭奏上帝詛罪奪等也然此實道家之法性々有
無知釋子入會圖謀小利會不尋其根本誤行邪
法深可痛哉也とあらう此假訂補

補 祈禱の說

俗写疾病わきハ他をまねきて祈らるる事多
今接るよ祈るよ通わう先儒比後よその文ふと多く

臣代不ふかくも疾わくて祈る禮の常なり猶
世俗わつゝめ疾病わきハ祈りていぢりむが如く紀本
主て脩めよかく一先もとがむら理とくまとよとぬく
かくと死生有命在天とりの事ぞ一既とあたらむ
以つも人なる事も前よりはよ氣よ誠とくとて
ト殊文病癒れ付ひゆうてひまじく間断なくあら
やく然修くすへて是するより亦さうわもうゑとい
やうつゝ小巫術のミ粒う称てされどもからくみゑ
らうめん紀本とよとて魔除けとさう

續 禁咒の說

俗云繫兜頭也

今按あす御代むす人已貴少夷名の繫厭汎渙ハ
もくとほとちうと今名せのすあひは多くハ流屬
氏の毛小虫まくあれ毛色黒て益わぬ半多
中りこまよはしてさすよ世俗佛紙うひ傳承信と
志れぬよ仍きれ佛教何もこの經文ナリシテ之秋釋
神とわら坐て織よとあよ下にて彼夷かとと貳
やまと自和よ發わぬふね半う乞世小所謂社子夷
ク詩と唱へ王維う盡波身乾う解よ翁まで瀧代金う
きくひぢり信とてあくまうてとゆなり



四器

